

◆前田集会所【平成29年4月18日(火) 参加者数19人】

- ★調査結果等補足説明については、当日発言内容と区別するため【→朱字】で表示しています。
- ★完了事項については、【→青字】で表示しています。
- ★いただいたご意見等はそのまま記載していますので、実際の状況等と異なるものもあります。

No.	質問・意見等	回答等
1	バスが通っていない地区において、タクシーの補助制度を考えてほしい。	タクシーの補助は、交通機関の利用が困難な寝たきりや認知症などの在宅高齢者を対象としています。バスについては、70歳以上の方を対象に半額助成を実施しています。高齢者全員にタクシー補助というのは困難ですが、バスを利用しない70歳以上の方にタクシー補助をした場合の費用について、平成29年7月より調査を開始しています。
2	去年からバスがチャージ方式になり、換金する営業所が遠い。現金のほうが使い勝手が良いのではないか。	チャージ方式のメリットは2つあります。釣銭に関する事故の防止と、バスの利用人数や利用状況の調査が行えることで、今後の市民サービスにつなげていきます。
3	市内の小・中学生で私学に行っているのはどのくらいか。全国学力・学習状況調査の結果には私学も含まれているのか。大学等入学支援金制度にもっとお金を出してはどうか。	小学生で約10%、中学生で約35%が私学に行っています。全国学力・学習状況調査は、公立の学校のみでの集計です。大学等入学支援金制度については、国が新しく給付型の奨学金制度を始めましたので、今回はスタートとして1億円の基金をもとに、対象者1人当たり20万円の給付を行います。
4	最近こども食堂というものがあるが、食べるのに困っている老人のためにも大人食堂をつくってほしい。	→第3次芦屋市地域福祉計画に重点的に進める取組として、『身近な「つながりの拠点」づくりを進めます』、『健康づくりや生きがいづくりの活動を進めます』を掲げており、高浜町1番社会福祉複合施設において、子どもから高齢者まで、全世代が活用・交流できる機能を持つ居場所の設置について、ご意見も踏まえ、運営法人とともに協議を進めます。
5	社会保険が行き詰まっていく中で、保険料の高さを何とかするための打開策を芦屋から発信してほしい。	→国民健康保険に関して、医療費の増加に確実に対応できるよう、国による財政支援を拡充し、さらなる国保財政基盤の強化を図るよう要望しているところです。
6	芦屋のまちを、多くの方に訪れていただき、住んでもらうためには、抜本的な改革が必要であり、何か工夫をしないとイケないのではないか。	その一環として「憧れを、日常に。」というキャッチフレーズとロゴマークを作成しました。 →様々な媒体を活用し、市の魅力を発信してまいります。
7	子どもたちの将来の展望のため、いろんなことへのチャレンジができるよう、県立の高校でも、小・中学校と同様に、子どもたちに学力を身につけられるようなことをしてほしい。	市内では小・中・高での連携をこれからも継続していきます。また、県の教育委員会とも連携を強化していきます。
8	自治会からも要望が出ているのだが、前田公園にも防犯カメラを設置してほしい。また、防犯カメラの設置事業は今後どう進むのか。	防犯カメラは市の全額負担で、これからもご希望があれば予算をつけていきます。カメラの設置箇所は各自治会の要望を出していただければ検討します。 →前田公園については平成28年度に防犯カメラを設置済みです。

◆前田集会所【平成29年4月18日(火) 参加者数19人】

- ★調査結果等補足説明については、当日発言内容と区別するため【→朱字】で表示しています。
- ★完了事項については、【→青字】で表示しています。
- ★いただいたご意見等はそのまま記載していますので、実際の状況等と異なるものもあります。

No.	質問・意見等	回答等
9	50平方メートル以上の防災倉庫は市内に何か所あるのか。災害時の防災倉庫の食料等備蓄状況を教えてほしい。また、地域の防災倉庫には食料品の備蓄はないが、市の全体での備蓄場所はどこにあるのか。	50平方メートルの防災倉庫が市内の各小学校区にあり、全部で9か所です。市が1日、県が1日、市の提携機関で1日の計3日間は公共で賄う予定で、現在2万食は用意できています。備蓄食料は、期限が切れる前に順次、防災訓練等で活用しています。
10	市営墓地の合葬式の計画の進捗状況を教えてほしい。	まだ数年かかると思いますが、平成29年度予算で基本設計を進めていく予定です。平成30年度に実施設計、平成31年度より工事を行う予定です。
11	資料の11ページの子育て・教育について、文中の、「入学前の子どもたちの最善の利益につながるよう・・・」とあるが、最善の利益とはお金のことか。また、幼稚園・保育所の統廃合の決定が早急すぎる。幼稚園や保育所を廃園にして、家の近くに預けることができないなら芦屋には住めない、という若い人の声も上がっている。	「最善の利益」とはお金ではありません。急ぎすぎと言われますが、待機児童解消を考える上ではむしろ遅いと感じています。その中で幼稚園、保育所、認定こども園など、あらゆる方面に配慮しています。20年、30年先を見据え、今回の案としたものです。また、芦屋に住めなくなることはないと思います。
12	西蔵の市営住宅跡地の認定こども園は、市が指定する浸水想定地域に該当しているので、建設を見直すべきである。予定地の周辺住民への説明は行っているのか。また、新たに建物を建設する前に、各幼稚園で3歳児保育を実施するなど、現時点でできることに注力してほしい。	西蔵の認定こども園整備においては、子どもたちの命をまず守り、安全を重点的に考えたいと思います。なお、地域の方にも説明会は行っています。幼稚園の定員割れが続く中、全ての幼稚園を残しながらでは、1園当たりの子どもの数が少なくなります。教育的効果の面から見ても、幼稚園教育には一定規模の人数が必要になります。また、待機児童問題や幼稚園経営の適正規模等を考えたときに、幼稚園における市民の皆さまの思いの深さを継承する意味も込めて、公立の認定こども園にすることになりました。
13	学校教育審議会では、認定こども園の建設について話はなかったが、回答書には話があったように記載されていた。	学校教育審議会の答申の内容を踏まえて市全体で考えた案です。
14	「全ての就学前の子どもたちの最善の利益」というのは何なのか。認定こども園になれば、幼稚園と保育所が一緒になり、保育園の子どもは、早く迎えのくる子が親と手をつないで帰る姿を見ることになる。	全ての子どもたちというのは、目の前の子どもはもちろん、357人の待機児童、そしてこれから先の子どもたちも含まれます。認定こども園の一部で問題はありましたが、それゆえに県が調査指導を始めていますし、これを機にもっと良くなると考えています。市としては、公立の認定こども園でその基準となるモデルをつくっていかうと考えています。加えて、他市の幼稚園の官民比率を考えると、他市では公立が30～40%であるところ、芦屋では70%ほどあります。今後も社会経済情勢が変化する中で、子どもたちを社会全体で育てていくにあたり、現在の高い割合を保つことが課題となります。それらを踏まえ、官と民が連携して、将来を見据えて考えるということが今回の案です。
15	学童保育の指導員をしているが、人手不足である。嘱託を増やしてほしい。	嘱託というのは難しいですが、不足については手当でしていきます。

◆前田集会所【平成29年4月18日(火) 参加者数19人】

- ★調査結果等補足説明については、当日発言内容と区別するため【→朱字】で表示しています。
- ★完了事項については、【→青字】で表示しています。
- ★いただいたご意見等はそのまま記載していますので、実際の状況等と異なるものもあります。

No.	質問・意見等	回答等
16	浜風の家を取り壊すのではなく、他に何か使い道はないのか。芦屋にはこういった建物が少ない。利用が少ないからやめるのではなく、例えば、レストランなど新たな活用方法が検討できないか。	建物そのものが老朽化していることもあり困難です。
17	奥池の下り方面のバスの最終は19時29分となっている。多くの方に住んでもらうためにも、もう少し遅くまで運行してほしい。	阪急バスに繰り返し要望していきます。
18	衣食住や娯楽も含め、市の文化的要素をひとつにまとめた資料がない。何かを調べる時にある程度の情報をまとめて集めることができるよう、情報の一元化制度をつくってほしい。	研究します。